

式辞



厳しかった冬の寒さもようやく和らぎ、季節は確実に春へと移りつつあります。本日ここに、多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、また、多くの保護者の皆様のご列席をいただき、平成二十九年度の卒業証書授与式を挙行できますことは、大きな喜びであります。教職員を代表し、高いところからではございますが、心より御礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました80名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。君たちは本校の全課程を修了し、本日、晴れの卒業証書を手にする事となりました。この三年間、楽しいこともたくさんあったでしょうが、辛かったこと、苦しかったことも少なからずあったはずです。しかし、君たちはそれらを乗り越え、今日という日を迎えました。本当によく頑張った。自分の頑張りを自分で褒めてください。胸を張ってください。ただ、君たち一人ひとりの頑張りだけではなく、温かい愛情を持って支えてこられたご家族の皆様や先生方、さらには本校にご支援をいただいている多くの皆様方のお陰でもあります。感謝の気持ちを忘れることなく、なお一層の努力を積み重ねていってくださることを期待します。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。今日のお子様の姿に、感慨も一入のことと思います。また、これまでの本校教育活動に賜った深いご理解と多大なるご協力に対しまして、改めて御礼申し上げます。

さて、私はこの一年、「邇摩高校を心の通い合う温かい学校にしたい」と訴え続けてきました。君たちに心の大切さを伝え、君たちの心の成長を願い続けてきました。身体の成長は止まっても、心は永遠に成長させることができると私は思っています。今日が、私から君たちに直接語り掛ける最後の機会となりますが、心の成長に欠かせない「出会い」について話をします。

まず、誰の言葉かはわかりませんが、一文紹介します。

「人との出会いは偶然ではなく必然。どんなに自分にとって嫌いな人間だとしても、自分がその人をひきつけ、出会うべくして出会っている。今出会っているすべての人たちは、自分の人生の中で必要な人たちであり、嫌いだと感じる人からも得るものが必ずある。自分の人生に誇りを持つためにも、すべての出会いに感謝と思いやりを持って接していこう。」

君たちは、現在約七十六億人と推定される世界の人たちの中で、偶然にも邇摩高校という一つの集団に属し、同じ時間を過ごす仲間と出会いました。今、ここにいる人たちと出会ったことは、本当に奇跡的なことです。まずは、この奇跡的な出会いに感謝の気持ちを持ってほしい。しかし、今日まで同じ空間で同じ時間を過ごすことが当たり前だった仲間は、これからは理由がないと顔を合わすことがありません。今日まで当たり前の存在だった人が、明日からは当たり前の存在ではなくなる。君たちは、長い人生において、このような経験をたくさんすることになります。だからこそ、その時々のお会いに感謝し、大切にしてもらいたいのです。

偶然のお会いを必然と捉え、自分の人生にどう生かすのか、それは君たち自身の気付きと行動次第です。自分とは異なる生き方から何を学ぶのか、自分にはない価値観をどう受け入れるのか。人から指摘されて初めて気づく自分の長所と短所、人と協力して壁を乗り越えることで初めて気づく自分の強みと弱み。人は一人では生きていけない。出会い、関わり合い、わかり合い、支え合うことによって、人は成長していくのです。

高校生活は、長い人生のうちのたった三年間ですが、本当に貴重なものです。今は実感が湧かないかもしれませんが、将来、自分の歩んできた道を振り返った時、高校時代に体験したことが自分の人生に大きな影響を与えていることに気付くはず。その時はじめて、自分の成長を感じるのかもしれませんが。もしかしたら、もっと頑張っておけば良かったと後悔することがあるかもしれない。大切なのは、後悔の気持ちを持った自分に気付いた時、次にどう行動するかということです。

社会は大きく変化しようとしています。少子・高齢化、過疎化、国際化、情報化、人工知能やロボットの進化など、様々な要因が交錯し、今後どうなっていくのか予測できない時代がもう目の前に来ています。社会や環境の変化に対応するため、変えていかなければならないことがたくさん生じるでしょう。しかし、そんな時にこそ変わらず大切にしなければならないものがある。それは人の心だと私は思っています。

本日、ここ邇摩高校から羽ばたいていく君たちへ、私から最後の問いかけをします。

「君たちは、これからどう生きるのか。」「それを決めるのは、誰なのか。」

それでは、卒業生の皆さんが、これまでの出会いとこれからの出会いを大切に、その出会いから新しい自分を発見して成長してくれることを願い、そして皆さんの力で心が通い合う温かい社会を築いてくれることを期待し、式辞といたします。